

水産研究のフロントから

広島大学大学院統合生命科学研究科
附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究
センター 竹原ステーション

Takehara Station, Setouchi Field Science Center,
Graduate School of Integrated Sciences
for Life, Hiroshima University

本施設は、瀬戸内海中央部に位置する広島県竹原市に立地している。近年の沿革としては、1991年に広島県福山市の箕島町、熊野町、仙酔島にあった生物生産学部附属水産実験所を統廃合して竹原市に移転した。2003年、東広島市にある農場などとともに「生物圏科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター」に編入され、これに属する「竹原ステーション」として改組された。2019年には統合生命科学研究科附属施設となった。現在、教員3名、技術職員1名からなる小所帯ではあるが、2012年に過去の教育活動が評価を受けて文部科学省の教育関連共同利用拠点に認定され、第2期目を経過している。

最大の特徴はフィールドの素晴らしさであろう。環境省選定重要湿地「ハチの干潟」をはじめ、アマモ場、ガラモ場も数多く点在する。カブトガニ、シャミセンガイ類などの希少な無脊椎動物も生息し、魚介類ではマダイ、クロダイ、ズズキ、ヒラメ、クロメバル、オニオコゼ、サヨリ、マダコ、コウイカなどの有用種が多産する。周辺では養殖産業が盛んであり、クルマエビ（大崎上島）、マガキ（安芸津町）、スサビノリ（福山市）の養殖の規模が大きい。竹原市には広島県栽培漁業センターがあり、これらの業者や研究機関と連携して里海に関する教育研究を行っている。

メインキャンパス（東広島市鏡山）からは約30 kmの距離で、車でのアクセスも容易である。施設には、清浄な海水を供給する取水ポンプ（揚水能力0.33 m³/分）、珪砂・アンソラサイトの濾過器を備え、屋内外水槽に配給している。船内外機付ボート「からぬす丸（2.2トン、最大船速27ノット、定員14名）」を有し、安芸灘、広島湾でのプランクトン、魚類寄生虫、海藻類の生態、クロダイの産卵生態、浮遊・底生系物質循環モデル化、光合成細菌・薬剤耐性菌の探索などの教育研究に利用されている。機器類では、走査型電子顕微鏡、蛍光顕微鏡、微分干渉顕微鏡、実体顕微鏡、パラフィン切片製作器具類などの観察器具類が充実している他、基本的な遺伝子解析機器類も備える。生物多様性に富み、交通の便もよいことから、新型コロナウイルス流行前には年間延べ3,000名前後の学内外の利用者があった。さらに、生物生産学部附属練習船豊潮丸（256トン）との連携した教育研究を展開していることも最大の特徴である。拠点事業として本施設と練習船の両方を利用したハイブリット型演習を展開している他、練習船を用いて黒潮、対馬暖流の流域における実習も本施設に属している学生に提供している。沿岸域から外洋域の生態系を比較、理解させる工夫をしている。

教育研究の国際化にも対応しており、韓国・全南大学校と教育面、マレーシアのスルタン・ザイナル・アビディン大学、マレーシア国立サバ大学と研究面での協定も締結している。サクラサイエンス事業でフィリピン、中国の高校生との研修を受け入れてきた。新型コロナウイルス蔓延のため、活動は休止状態であるが、終息後の発展に期待が持たれる。地域貢献も積極的に実施しており、地元の小中高の生徒に対する出前授業や干潟、藻場の観察会、市民対象の公開講座、広島大学総合博物館と連携した里海に関する出前博物館などを実施してきた。（広島大学大学院統合生命科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター 副センター長

大塚 攻）



竹原ステーション（左：中央の白い建物）、練習船豊潮丸（右）